

2024年4月度の観察記録

カテゴリ : 2024年

_MD_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2024-4-14

2024年4月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2024年??4月?14日(日)9:30~12:10 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子
写真協力: 伊藤義人氏

参加者: 大人?20名, 子ども?4名 天気: 晴れ 夏日となることが予想されたこの日は、朝から日差しもたっぷり注ぎ上着を脱いで出発する参加者も見られました。たくさんの植物や昆虫に出会い、なかなか観察の列が前に進みませんでした。さまざまな新しい発見を楽しみました。 4月の観察会ではヒメオドリコソウがよく取り上げられますが、今回は**ホトケノザ**がすぐそばで咲いていたので比べて観察しました。両者は似ている印象ですが、よく見ると葉の形や花のつき方など、はっきりとした違いがありました。すぐそばには**キュウリグサ**が小さな花を咲かせており、葉をちぎってその名の由来となっている香りを確かめました。また久しぶりにカラスノエンドウと**スズメノエンドウ**の違いについて、草花に詳しい参加者に教えてもらいました。花の色やつき方、葉の形状など見分けるポイントは複数ありました。この日はあとからカスマグサも観察し、エンドウ三兄弟と紹介されました。





ホトケノザ キュウリグサ スズメノエンドウ **ヒラタアブの仲間の幼虫**や蛹をたくさん見かけました。幼虫はアブラムシを捕食するので益虫とされています。オタマジャクシ池では**ショウブの花**が咲いていました。ショウブは時として水面を埋め尽くすほど繁茂するので、トンボの産卵場所としての水辺の役割に支障が出る心配があるとのことでした。近くの草むらでは**カキドオシ**の花が見られました。カキドオシはシソ科で、葉をちぎるといい香りがします。



ヒラタアブの仲間の幼虫 ショウブの花 カキドオシ

またこの日はカラスノエンドウの上を歩き

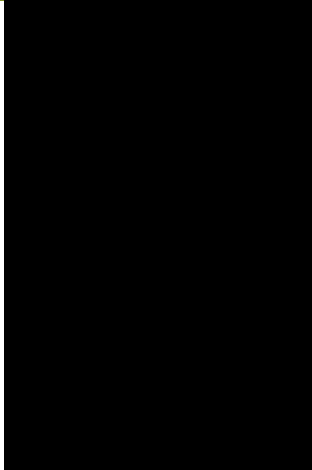
回るナナホシテントウの終齢幼虫をたくさん見ましたが、**ナナホシテントウ**の蛹も多く見つかりました。せせらぎの近くの偽木柵では1本に複数の蛹が、いずれも南側についていました。中道の脇では**コナラの雄花**が咲いてたくさん垂れていました。写真に撮ってあとで確認すると偶然**ワカバゲモ**が写りこんでいました。**コバノミツバツツジ**も美しく咲き、葉があとから出てくるので花のピンク色がひととき目立っていました。



ナナホシテントウの蛹 コナラの雄花とワカバゲモ コバノミツバツツジ

3月の観察会では、ギ

シギシについたコガタルリハムシの卵や腹部の膨らんだメスの成虫を観察しましたが、この日ギシギシは食痕で穴だらけになっていて、黒い**コガタルリハムシ**の幼虫がたくさん見られました。



コガタリハムシの幼虫 **イモカタバミ**の花を見た参加者から、その名の由来となっている根の部分がどんなふうにイモ状になっているのかとの質問が出ました。そこで何年かぶりに根を掘り出して観察しました。また参加者の一人が、**アカメガシワ**を使った子どもの頃の遊びを紹介しました。新芽の赤い部分をマツヤにを塗った皮膚に貼りつけると、写し絵のように転写される様子を、ほかの参加者も興味を持って真似をしていました。





イモカタバミの根 アカメガシワの新芽の転写 コナラの新芽では葉がギョウザ状に閉じた状態になっているものをいくつか見かけました。中を開けてみると、脚のない白い小さな幼虫が10頭以上いて動いていました。これが何であるのか調べてみましたが、分かりませんでした。同じコナラの別の新芽の中にもぐりこんだクヌギカメムシの幼虫も見つかりました。



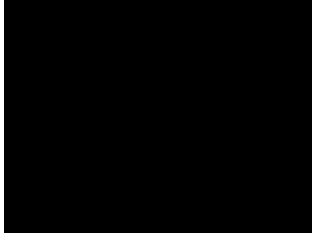
閉じたコナラの新芽 中にいた幼虫 クヌギカメムシの幼虫 畑を見ると、菜の花に姿のよく似た白い花が一面に咲いていて、**ダイコンの花**と教えてもらいました。こんなに花が咲いたダイコンは中がスカスカで食べられないそうです。その花をたくさんのチョウが訪れていて、**ツマキチョウ**のオスも一頭だけ見ることができました。ツマキチョウはモンシロチョウやキタキチョウと同じシロ

チョウ科のチョウですが、年に一度春だけに見られるため、春の使者、スプリングエフェメラルなどと表現されます。ダイコンの葉にはたくさんの**モンシロチョウの卵**が産みつけられていました。



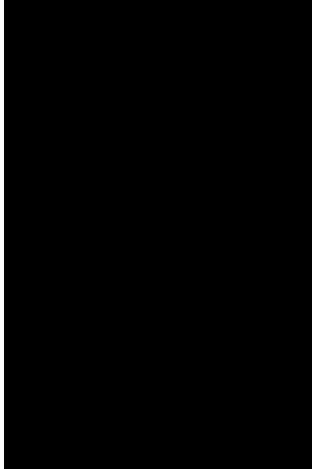
ダイコンの花 ツマキチョウ モンシロチョウの卵 少し暑くなってきたので、日陰を通過して田んぼの方へ向かうことにしました。雑木林の林床では**アベマキの実生**が育っていて、子どもたちと一緒に観察しました。またつやのある傘にいぼのついた**茶色いキノコ**が目を引きました。





アベマキの実生の観察 キノコの仲間
介されました。わずかながら花が咲いていて、その目立たない地味な姿を意外に感じると話す参加者もいました。

林床の別の場所アオイと思われる一群が紹



ヒメカンアオイの花

田んぼに到着した頃には11時30分を回っていて、戻り始める時間が迫っていましたが、花の咲いたトキワハゼやタチイヌノフグリを観察しました。またヨシの葉で作った舟を水路に流して楽しむ参加者の姿も見られました。



トキワハゼ タチイヌノフグリ ササ舟を流す 子どもの参加が思いのほか少なかったこともあつてか、植物を多く見て歩きました。しかもほとんどが花の観察となり、春に咲く花の多いことを実感しました。

平和公園での観察項目：ホトケノザ,カラスノエンドウ,スズメノエンドウ,キュウリグサ,ノミノフスマ,アブラムシ,イトトンボの仲間,ナミテントウ,ナナホシテントウの幼虫と蛹,ヒラタアブの仲間の蛹,ヒラタアブの仲間の幼虫,カダヤシ,クサギカメムシ,綿毛のタンポポ,ハシブトガラス,ヤナギルリハムシ,コガタルリハムシの幼虫,コバノミツバツツジ,ヤマツツジ,ガマズミ,ハクサンボク,オオイヌノフグリ,ダイコンの花,カスマグサ,コナラの新芽の虫えい,虫えいの中の幼虫,クヌギカメムシの幼虫,アカメガシワの新芽の転写,ツマキチョウ,モンシロチョウの卵,ニワゼキショウ,アリの仲間,レタス,ミントの仲間,ウスノキ,ミチタネツケバナ,ミヤマヨメナ,アベマキの実生,キノコの仲間,ヒメカンアオイ,コバノガマズミ,サルトリイバラの花,田んぼ,トキワハゼ,レンゲ,タチイヌノフグリ,ササ舟,アカメガシワ,ミノウスバの幼虫,ベニシジミ,ナミアゲハ,ヤマトシジミ,キタテハ,ルリタテハ,モンキチョウ,センダイムシクイの声,ウグイスの声,シジュウカラの声